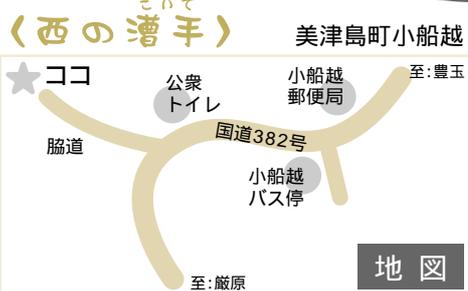


新コーナー

隠れた対馬の名所を巡る

つしま HOT SPOT



みなさん写真の場所がどこだか分かりますか？  
 ここは国道382号線小船越の公衆トイレから脇道を徒歩1分の場所にある「西の漕手」です。意外に知らない歴史が隠れています。  
 ここ小船越は三浦湾から小さな丘を隔てて浅茅湾の西の漕手に接しています。小船越の地名は古くからこの丘を船を引いて西に越え東に越えていたことに由来します。かつて遣唐使や遣新羅使は、九州本土から三浦湾に来て下船し、西の漕手に用意されてた別の船に乗り換えて大陸に向かったといわれています。続日本後紀巻第九にも、その記述があります。また、対馬では常

時十隻の新羅船が待機していたとのこと。ここが大陸から日本に伝わった文化の入り口このように考えるだけで浪漫を感じませんか？  
 国道から徒歩1分。古の風景が目飛び込み、時空を越えたような錯覚に陥ります。騒々しさがなく、鳥の囀り、風の音、波の音といった自然界が織りなす音だけが耳に入り、疲れた心身を癒してくれるそんなところです。まずは体感してみてください。  
 対馬市観光交流課では、みなさんからの情報をお待ちしております。「こんなところがあるよ」といった場所があります。もし、ドシドシお寄せください。

対馬市観光交流課 0920(53)6111 内線(302) 助0920(53)6112 ✉asightseeing@city-tsushima.jp

「わがまち再発見！」

シリーズ文化財の紹介

豊玉の猪垣



豊玉の猪垣は、元禄〜宝永年間(1688〜1771) 対馬藩あげて行われた猪狩りの時に造られたものではないかと伝えられ、現在、県の有形民俗文化財に指定されている石垣の遺構が、豊玉町塩浜の山中に残っています。  
 猪狩りは江戸時代全島規模で行われ、前後9年に及ぶ大事業でしたが、この遺構を猪垣と断定するには、いくつかの疑問符がついています。猪追詰めの際であるならば、石垣ではなく、木柵で十分ではないか。  
 この地区だけに堅固な石垣を築く必然性が見当たらない

い等の理由で、この石垣を猪狩りと結びつけるには、さらに研究調査が必要だとされています。  
 では、いつごろ何のために築かれたものか、それについては、「馬の放牧をするための牧場に設けられた柵」ではないかとする説があります。  
 嘉吉〜応仁年間(1441〜1468)に設置された対馬の牧場は、佐護の中山、廻の池田、横浦の長崎(現指定地)、国府(厳原)の有明の4力所にあり、馬を4千頭余り放牧し、中でも長崎の牧場が最も広く、東西二里、南北二里半もあつたということから、「猪垣は牧場の柵だと見れば色々の疑問が解けてくる。」という説です。(「猪垣について」『対馬風土記』第10号)

基本的にはこの説が有力視されていますが、疑問のすべてが解かれた訳ではありません。4力所のうちの複数の牧場について、例えば絶壁等の危険箇所、あるいは山と耕地の境界等に類似の石垣が残っていれば、この説も説得力を増します。が、ただ一例(指定地のみ)だけでは、あくまで可能性を指摘したに過ぎず、なお疑問は残る。としています。  
 宗家記録をはじめ関係史・資料等にも、この塩浜の石垣と特定できる石垣に関する記録はなく、今のところ、絵図や文書史料等で裏付けられない限り、この疑問に対する回答は出ないようであります。しかしながら、この石垣が島民の暮らしに大きな役割を果たしたであろうことは容易に想像でき、先人の智慧と協働の精神を後世に伝えていく意味は大きいと思います。  
 「豊玉町誌」より

対馬市教育委員会 文化財課  
 0920(54)2341